

事業所名

すまいるKidsなないろ

放課後等デイサービス 支援プログラム

作成日

2024年

12月

26日

法人（事業所）理念		すべての子供たちには健やかな育ちと豊かな暮らしを保障される権利があります。自分が愛され尊重されていると感じる安心と自信を育て、コミュニケーション力や生活する技術を身に付け、自分の人生を自分で選び、静実機の豊かな生活につなげる場を提供します。			
支援方針		安心安全な環境の中で落ち着いて過ごせるよう配慮する。 一人ひとりの「個性を認める」「強み」となるものを、5領域を相互的に関連づけた活動のなかで、個々・集団で経験を積み人間関係の構築と共に、将来、日常生活や社会生活を円滑に進めることができるよう支援していく。また、家・学校以外の居場所として安心して過ごせる場所を提供する。			
営業時間		9時00分から	18時00分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容					
本人支援	健康・生活	身支度や持ち物の管理を自ら行い、環境整備を自立的に行うよう支援する。年齢が上がるにつれて、精神的や肉体的に大きく変化する個々の状況を踏まえながら不安定な心身の葛藤に対応し、気持ちを言葉で表現したり数値で表すなど気持ちのコントロールをできるような練習をする。予定を表示し、過去（経験）や未来（予想）等を具体的に思い出したり描いてみたりする中で生活の工夫や知識（知恵）を蓄え幅を広げ繋げるよう支援する。			
	運動・感覚	姿勢を正すことを中心に、「体幹を鍛える」「バランスをとる」などの動きを活動の中に取り入れ全身の筋力の向上や体の動かし方などを身につける。 微細運動（手指）の動きも、色々な用具を使い、目と手の共同作業と距離感、触覚などを養う。 音楽、リズムに合わせて体を動かすことを楽しみながら、手・足・胴体のほか体の先々までの動きを意識し、他者（物）との距離感等の感覚も覚えていくよう支援する。			
	認知・行動	色々な情報を取り入れながら、気持ち（感情）のコントロールと適切な処理の仕方と一緒に学んでいく。 苦手意識のあることにも向き合い頑張ろうとする力を養う。形・数・列・縦・横・平面・立体・臭い等々、生活やプログラムに取り入れながら理解が深まるよう、具体的に身近な素材や教材などを利用したり工夫したりしながら認知能力を高めるよう支援する			
	言語コミュニケーション	ジェスチャーを交えながら「話すこと」を楽しみ語彙を増やし「聴く力」もコミュニケーションを取り合うなかで支援する。 様々な言動の中で、不適切な言葉・行動等を大人が認識し、何を抱えているのかを丁寧に観察し対処方法を考え社会的にも適切な言動や行動を知らせ支援する。 生活の中で必要な言葉（して欲しいこと、困りごと）を相手に伝えられるよう一緒に練習し、必要なことを自信を持って適切に伝えられるよう支援する。			
	人間関係社会性	グループ活動・集団（全体）活動を通して、「ルールを守る」「協力する」「譲る」「受け入れる」「感謝」「謝罪」「マナー」等々を一緒に行動をとり、井蛙くつをするために必要なスキルを身につける機会を増やし支援する。失敗や成功を何度も経験し、肯定的な部分を増やしていく中で自己肯定感を養うよう支援する。 非認知能力（やる気・忍耐力・協調性・自制心等々）を言語化し明確にしながら、円滑な人間関係を構築できるように支援する。			
家族支援		利用者だけでなく保護者の様子や言動等も職員で共有し、問題があれば早い段階での対応を図る。Line等のSNSを活用し保護者が「いつでも」「どこでも」施設管理者や児発管と連絡を取れる環境を作っている。	移行支援	必要に応じて利用者の学校と連携を取り、担任教諭や利用している「わくわくプラザ（キッズくらぶ）」の児童指導員と支援方針について情報共有を図る。	
地域支援・地域連携		支援を受ける子どもが適切な支援を受けられるように、関係機関と連携するネットワークを構築する。	職員の質の向上	毎月1回全職員が参加する会議を行い、支援方針や支援方法を具体的に検討・共有する場を設けている。外部研修会への参加を奨励し、積極的に障害理解と支援方針について学んでいる。	
主な行事等		避難訓練（2回/年以上） 交通安全指導 不審者対策 熱中症対策 夏祭り スペシャルおやつDAY お楽しみDAY なないろ劇場 音楽会			

事業所名

すまいるKidsなないろ

児童発達支援 支援プログラム

作成日

2024年

12月

26日

法人（事業所）理念		すべての子供たちには健やかな育ちと豊かな暮らしを保障される権利があります。自分が愛され尊重されていると感じる安心と自信を育て、コミュニケーション力や生活する技術を身に付け、自分の人生を自分で選び、静実機の豊かな生活につなげる場を提供します。		
支援方針		個々の「個性を認める」「強み」を見つけ大事にしながらチーム療育を行い支援する。居場所として安心安全な場所になるよう環境を整え支援する。他の療育・保育・関係機関との連携をとり協議を大切に仕組み。専門職の支援（集団及び個人）を提供する。		
営業時間		9時00分から18時00分まで	送迎実施の有無	あり なし
支 援 内 容				
本人支援	健康・生活	個々の生活実態を加味し、無理のない生活習慣を心がけ、健康状態の把握と健康維持や改善、基本的な生活習慣の獲得と生活リズムの形成を支援する。学習に向かう支援を学びや生活の中で環境整備をして取り組む。見通しを持って生活が送れるよう、ボードに予定を張ったり、タイマーで知らせたりし混乱が起きないように配慮し支援する。		
	運動・感覚	運動機能・バランス感覚・距離感・感触等に触れ、体幹を鍛え姿勢を正すことや動きのコントロールを意識できるよう活動に取り入れる。生活の中の音や音楽を通して、楽しく体を動かしながらリズム感を養う活動を取り入れる。手指を使う遊びやプログラムを通し、無理なく微細運動に取り組み、機能の向上を図る支援をする。目で見る、耳で聞く、鼻で嗅ぐなど様々な器官をつきあ感覚や感性を養う活動で支援する。		
	認知・行動	ここの特性に合わせ、方法や環境を考慮し適切なプリントでの学び、理解に繋げる。日常生活を通してみじかな事柄・数・量・色・形・大きさ・重さなどを遊具や教材を使い具体的に言葉と結びつけながら抽象的及び具体的な概念を学ぶ機会を広げる。		
	言語コミュニケーション	言葉のやり取りを通して語彙の獲得を目指し、基本的な「聞く」「話す」のコミュニケーションの基盤を作る。個々のニーズに応じて、遊具や教材を用いたり、ジェスチャー等を交えながら、言葉の理解表現の伝え方や理解を深めていくなどの工夫をする。文字への関心を深め、読んだり書いたりを楽しみながら学習するきかを持つ。生活の中で必要な言葉（してほしいこと、困っていること等）を、職員と一緒に伝えられるようになり、円滑なコミュニケーションが測れるよう支援する。		
	人間関係社会性	一人ですることから徐々に順番や交代・役割を知るとともにルール等を通して他者との関係性を学ぶ。失敗やうまくいかない時の気持ちのコントロール法を一緒に考え、次につながる支援をする。肯定的な働きかけをすることで自己肯定感を育み、友達や職員とのやりとりが積極的にできるようになり他者と過ごすことが楽しくなるような環境作りをする。非認知能力について、伝えられない気持ちを言語化し、時には代弁していく中で気持ちの整理が出来、社会性へと繋げていくよう支援する。		
家族支援		利用者だけでなく保護者の様子や言動等も職員で共有し、問題があれば早い段階での対応を図る。Line等のSNSを活用し保護者が「いつでも」「どこでも」施設管理者や児発管と連絡を取れる環境を作っている。	移行支援	必要に応じて、利用者の保育園や幼稚園と連携を取り、支援方針や支援方法などを情報提供を行い就学に向けて共有する。
地域支援・地域連携		支援を受ける子どもが適切な支援を受けられるように、関係機関と連携するネットワークを構築する。特に支援を受ける子どもが通園している保育園・幼稚園との連携を図り適切な療育方法を探っていく。	職員の質の向上	毎月1回全職員が参加する会議を行い、支援方針や支援方法を具体的に検討・共有する場を設けている。外部研修会への参加を奨励し、積極的に障害理解と支援方針について学んでいる。
主な行事等		避難訓練（2回/年以上）交通安全指導 不審者対策 熱中症対策 夏祭り スペシャルおやつDAY お楽しみDAY なないろ劇場 音楽会		